

UICP Booklet 15

脳科学時代の倫理と社会

Ethics and Society in the Age of Neuroscience

目次

まえがき

脳科学と人間の生

信原幸弘

7

第一部 脳科学と人間観

人格の要件はカタログ化できるか

不気味の谷とパーソンネットワークの可能性

戸田聡一郎

13

記憶の操作と「ほんもの」という理想

中澤栄輔

37

二つの行為形成システムにおける自己制御の喪失

西堤優

63

病的賭博への神経経済学的アプローチ

吉田敬

87

第二部 脳科学の応用と倫理

ニューロエンハンズメントが医療として行われることの倫理的問題

医療化の問題を中心として

伊吹友秀

111

ニューロマーケティングに関する倫理的考察
疑似科学化と消費者の自律性

小口峰樹
137

通俗的「男脳・女脳」言説がはらむ問題
性差をめぐる脳科学と社会の中の性別

筒井晴香
163

認知科学・脳神経科学がリスク論に与えるインパクト
個人的選択から社会的論争への変換

関谷 翔
189

動物倫理の実践としての脳神経倫理

佐藤亮司
215

第三部 脳科学と社会

近代日本の脳病薬広告にみる脳

中尾麻伊香・住田朋久
239

萌芽的科学技術であるブレイン・マシン・インターフェイス(BMI)と社会の関係の考察
市民認識を手掛かりとして

磯部太一
261

脳神経倫理的議論は、いつ行うべきか
技術の開発段階を考慮に入れた技術アプローチによる検討

水島 希
289

脳科学時代の倫理と社会